



2020年5月21日

各位

会社名 東海運株式会社
 代表者名 代表取締役社長 長島康雄
 (コード番号：9380 東証第一部)
 問合せ先 企画管理部長 永山賢一
 (TEL. 03-6221-2201)

2020年3月期連結業績予想と実績との差異及び中期経営計画の修正に関するお知らせ

2019年5月13日に公表した2020年3月期連結業績予想と、本日公表の2020年3月期決算短信における連結実績との差異につき、下記のとおりお知らせいたします。

また、2018年3月30日に公表した2018年度から2020年度までの3ヵ年を対象期間とする中期経営計画『Azuma Challenge Next100 ～新たな100年へ～』の連結数値目標を修正いたしますので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 2020年3月期 連結業績予想数値との差異 (2019年4月1日～2020年3月31日)

	営業収益	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	43,381	734	808	476	17.13
実績 (B)	42,005	442	487	272	9.80
増減額 (B-A)	△1,375	△292	△321	△203	
増減率 (%)	△3.2	△39.8	△39.7	△42.8	
(ご参考) 前期実績 (2019年3月期)	41,976	652	718	325	11.72

(差異の理由)

営業収益は、海上コンテナの取扱量が増加したものの、建材関連貨物を中心に、取扱量が大幅に減少したことにより、前回発表予想を下回りました。

営業利益、経常利益及び親会社株主に帰属する当期純利益においては、営業収益が減少したことに加え、海上コンテナ蔵置スペースの逼迫により下請費が増加し、販売費及び一般管理費の見直しを実施いたしました。前回発表予想を下回りました。

2. 中期経営計画 連結数値目標の修正

	2020年度計画 (修正前)	2020年度業績予想 (修正後)
営業収益	440.0億円	414.5億円
経常利益	10.5億円	6.8億円

(修正の理由)

『将来のありたい姿』として、市場と顧客に選ばれる企業になるために、(1)環境変化への適応、(2)最新技術の取込み、(3)事業領域の拡大の3つを長期的な課題であるとの認識のもと、中期経営計画の重点課題として掲げた(1)企業風土の変革、(2)グループ営業力の強化、(3)6事業領域の充実については継続して取り組んでまいりました。

しかしながら、人手不足や海上コンテナ蔵置スペースの逼迫によるコストの増加、新型コロナウイルス感染症・東京五輪延期の影響による企業の生産・販売活動縮小を背景とした貨物の減少と競争の激化などにより、想定を超える極めて厳しい事業環境となる見通しであることから、2020年度の連結数値目標を修正することといたしました。

なお、中期経営計画の重点課題には引き続き取り組み、当社グループのさらなる企業価値向上に努めてまいります。

以 上